

●日本産寄居蟲類

(九)

理學士 寺 尾 新

屬 *Catapagnus* A MILNE-EDWARDS,

sensu extenso.

Catapagnus, A. MILNE-EDWARDS, Bull. Mus. Comp. Zool. Harvard, VIII, 1880, p. 46; S. I. SMITH, Bull. Mus. Comp. Zool. Harvard, X, 1982, p. 14; HENDERSON, Challenger Anomura, 1889, p. 75; MILNE-EDWARDS and BOUVIER, Mem. Mus. Comp. Zool. Harvard, XIV, No. 3, 1893, p. 125; T. R. R. STEBBING, Hist. Crust., 1893, p. 165; ALCOCK, Cat. Ind. Dec. Crust., pt. 2, fasc. 1, 1905, p. 114. *Hemipagnus*, S. I. SMITH, Ann. Mag. Nat. Hist., (5) VII, 1881, p. 143; & Proc. U. S. Nat. Mus., III, 1881, p. 422. *Cestopagnus*, BOUVIER, Bull. Mus. Hist. Nat. Paris, 1897, p. 229; ALCOCK, Cat. Ind. Dec. Crust., pt. 2, fasc. 1, 1905, p. 116.

背楯は短く、廣く、頸溝より前方はよく石灰質化し、吻は左迄突出せざるを普通とす。眼節は露出せり。腹部はよく發達し、螺旋狀に卷曲す。

眼柄は短く肥大にして且つ眼が大なるを通常とすれども、往々眼柄長くして、眼が中庸の大なる事あり。眼鱗は相隔る。第二觸角の鞭毛は甚だ長くして細く、まばらに毛を生じ、若くは毛を生ぜず。

第三顎脚は基部に於て相隔り、三對の顎脚は皆、其外肢に鞭毛を具ふ。

螯脚は左右其長さ相等しき事もあれど、右螯は左螯より肥大なり。而して雄に於て特に然りとす。指は水平面上に動き、指先は石灰質なり。第三脚は鉗狀ならざるか又は殆ど鉗狀ならず。先端近くに狭小なる鑷狀部を有する事あり。第五脚は鉗狀をなし、鑷狀部を有す。

右方の輸精管は長く突出して彎曲す、其彎曲の方向は反轉して背面に向ふ事あり、腹面に沿うて左方に向ふ事あり。先端は絲狀に終る事もあり。

腹部附屬肢は尾扇を形成するもの外は其數四にして、腹部の左側に着生す。此無對的附屬肢中、第一より第三までは雌にありては二又す。尾脚は左側の方、よく發達し尾節は先端凹み若くは二又す。鰓は十一あり。

註—予が次に記載せんとする一雄の標本は、單に輸精管の彎曲の方向に於てのみ MILNE-EDWARDS の *Catapagnus* 屬の特徴に合せず。他の性質にては此の屬以外の屬に編入し得ざるものなり。予の標本は輸精管の彎曲の方向、腹面に沿ひて左方に向へり。是れ BOUVIER の *Cestopagnus* 屬の特徴なり。而して後者が前者に異なる點は、上述の輸精管の彎曲の方向の差異の外に、後者に

ありては輸精管が絲狀に終る事ある事、吻が前者のよりも、より多く突出する事、眼柄が長く、左迄肥大ならず、眼が中庸の大きな事なり。

MILNE-EDWARDS の *Catapagurus* 及び BOUVIER の

Cestopagurus との差異の中、最も重要なものは、輸精管の彎曲の方向にある事明かなり。今此點は區別の目標となし得ざるに至りたり。而して、殘餘の諸點にては兩屬を區別するに足らずと予は思考す。是れ予が兩屬を合一せし所以なり。

Cestopagurus 屬に屬するもの

としては、從來、單にアデン灣より一種、マルダイブより一種知らるゝに過ぎず。故に、今、

兩屬を合併して一屬となす時に當つては *Cestopagurus* 屬の特徴

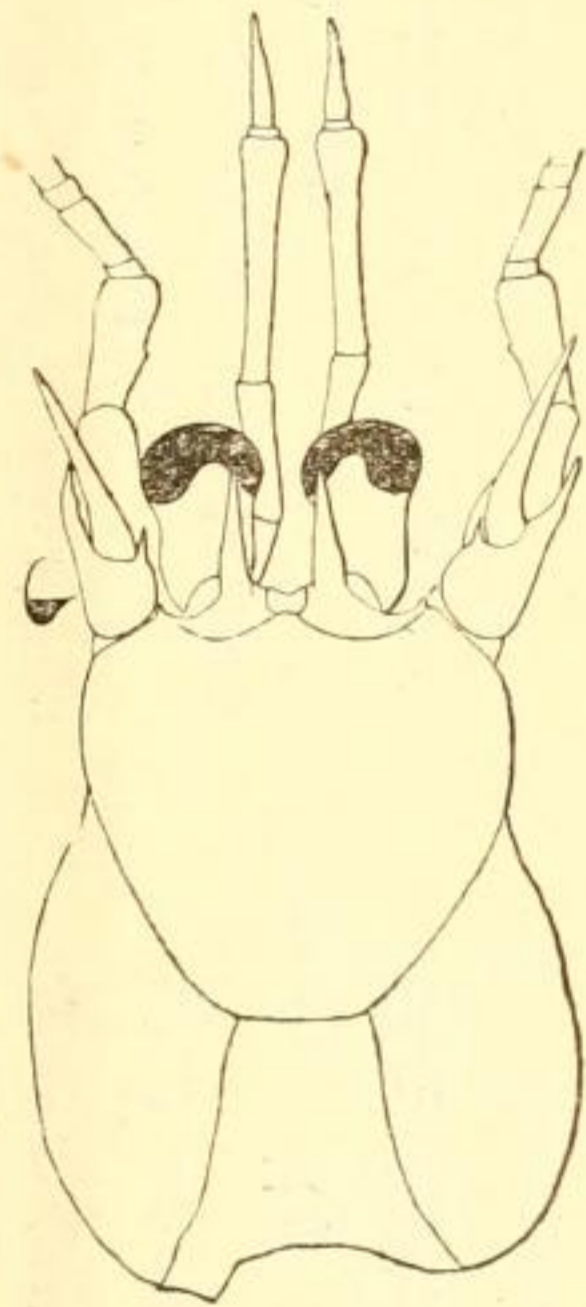
と考へられたる性質は、單に其屬中の二種に於ける例外たるべし。故に、合併によりて成立せる屬の緊括度は左程に害せられずといふべし。此點より見ても兩屬の合併は、非難を容るゝの餘地多しとはいふべからず。

次に簡單に予の標本を記載すべし。

Catapagurus misakiensis, n. sp.

背楯は背腹に扁壓せられ、後方擴張し、其最大幅は正中線にて測りたる長さの約八分の七に當る。淺き數多の横溝散在し、剛毛を此れより生ず。

吻は、背楯の前縁の側角程には、前方に突出せず。背



Catapagurus misakiensis, n. sp. ×6

楯の前縁の側角には各一個の微小なる小棘あり。眼柄は肥大なれども短くして、背楯の前縁の長さの半に達せず、且つ第一觸角柄及び第二觸角柄の第二節よりも短し。眼鱗は稍、圓錐狀をなし、相隔りて平行す。眼は腎臟形にして大なり。第二觸角柄の末端は第一觸角柄の末節の半に達す。第二觸角棘は洋劍狀にして長く、其延長第二觸角柄末節の半に及ぶ。第二觸角の鞭毛は長くして、全個體の長さの約二倍に達す。此鞭毛には、極めて輕微の毛を生ず。

右螯は、左螯よりも大にして長く、背楯の長さの約三倍あり。左螯は細く、其末端は右鉗嘴の半に到る。

第三左脚を缺如す。步脚を前方に伸長せしむるに第二右脚は第二左脚よりも長く、第三右脚は第二右脚よりも長し。而して第二左脚と雖右螯の末端よりも先方に達す。

輸精管は長く、第五右螯の底節より起りて彎曲して腹面に向ひ、腹面正中線を超えて少しく左方に及ぶ。其先端は糸狀に終らず。

產地—相模灘沖ノ瀬附近、二〇〇—四〇〇尋。大正三年六月二十六—二十七日。青木熊吉採集。雄一、背楯の長さ五耗。

註—本種と他種との區別點は前述の註及び上記の記載にて明かなるべし。